

## [様式 4]

# 令和 4 年度 学校総合評価

## 6 今年度の重点課題に対する総合評価

本校では、「共通科目・専門教科（商業）教育」「部活動」「多彩な活動」等あらゆる機会を通して人格の形成を目指しながら、地域社会や職場に貢献できる実践的な逞しい生徒の育成を図っている。本年度も、5項目の重点課題を挙げて、全教職員で共通理解を図りながら取り組んだ。

- (1)「学習活動 1」では、観点別評価など新しいことに取り組むことが多い中、授業内容の理解度が全体で目標の値を大きく超えている。学習ふりかえりシートがタブレットを利用し、デジタル化されたことで結果の自動集計、推移変化等を知ることができ、授業の評価や改善が進み、学習意欲の喚起、主体的な学びの態度・姿勢を自ら育むことが期待できる。また、ICTの活用と教員同士の指導アイディアや経験の共有が重要だと思える。
- (2)「学習活動 2」では、1・2年生の小学科の基礎科目、重点科目の授業の理解度が目標を超えており、先生方の熱心なご指導の賜物と思う。検定では、思考力、判断力、表現力を問う問題が増えている。各自がその能力を発揮するためには言語活動が正しくできる能力が必要である。読解力など言語活動能力を育成し、思考力、判断力、表現力を高めていただきたい。また、生徒が主体的に取り組むためには、目標の設定、良い習慣の継続と雰囲気作り、指導者の研鑽が大切である。
- (3)「学校生活」では、挨拶などの礼儀がよく、これは長年の伝統による校風と先生方のご指導の賜物と思う。社会人として時間を守ることは基本であるので、遅刻をこれだけ少なくする取組は素晴らしい。道徳心の育成が大切であり、家庭の協力を得ることも考えていただきたい。価値観や判断基準が多様化しており指導の難しさはあると思うが、高岡商業らしく人づくりを目指す指導をこれからもお願いしたい。
- (4)「進路支援」では、就職、進学実績は申し分なく生徒の満足度も高く保護者も同様の評価と思われる。ただ、生徒が自らの進路を意識する時期が3年生になる直前という者が多いということなので、今まで以上に3年間を見通した系統的な進路指導の充実を目的として、生徒の職業や進学先について自己理解を深め、適性を知る時期の早期化を行っていただきたい。また、若い先生方には企業を訪問し経営者に会い、現場の空気に触れ企業をよく知ること、先生方の見識や志気の向上、生徒との接し方や指導内容の改善につなげてもらいたい。
- (5)「特別活動」では、今年も高商生の活躍に多くの感動と元気をいただいた。コロナ禍のため制限の多い学校生活だったと思われるが、部活動を通して競技力の向上と豊かな心の成長を感じた生徒の割合が目標を上回っている。これは、生徒の意欲的で積極的な取組と先生方の熱意あるご指導の賜物と思う。部活動の中で育まれる人間関係や心身の成長は、貴重なものとなるので、これからは生徒が充実した学校生活を送ることができるよう指導をお願いしたい。

スクールポリシーに基づいて、様々な取組が行われていることは立派である。高商の目指す方向や地域社会から求められている点を先生方が理解し、相互共有していくことが大切である。また、大学等では、教育成果を測定・評価する際の達成すべき質的水準、評価方法を定めたアセスメント・ポリシーを策定し、それを踏まえて教育改善に取り組んでおり参考にできる部分があると思う。

## 7 次年度へ向けての課題と方策

- (1)急速なDXの進展やAIの導入により「規則的にデータ・数値を扱う仕事」等は、機械に置き換えられる可能性がある。実社会では、課題の本質を理解し解決に向けて挑戦するための思考力、判断力、表現力を備えた人材が一層求められるようになる。本校では、そのような社会で求められる能力の育成に取り組む必要がある。
- (2)「模擬株式会社りゅうりゅう」の活動は、課題解決型学習として商業高校での学びを生かしており、地域社会を支える有用な人材の育成につながっている。新商品開発や販売活動を今後も工夫しながら継続し、本校の取組、活動等をWeb等で地域社会に知ってもらえるように広報活動を充実させていかなければならない。

(様式5)

## 8 学校アクションプラン

令和4年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動1 (教科指導)	
重点課題	「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業実践と確かな学力の向上	
現 状	生徒の興味関心や学習に対する意識、学力などが多様化しており、学習への取り組み方や理解度・定着状況に差が表れている一方で、社会が求める人物像や新しい学力観に向け、生徒が主体的・対話的に学び、学習を深めるための授業改善を進め、生徒の興味関心を引き出し、学習意欲を高め、確かな学力を定着させることが必要である。	
達成目標	校内研修(研究授業、互見授業) 参加した回数 提出されたレポートの枚数	授業内容の理解度(興味・関心の喚起) ふりかえりシートを活用し理解度を 自覚させる等、積極的な学習活動につ なげる。
	2回以上 (内1回はAL型授業)	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・年2回の校内研修期間を設定し、可能な範囲で「主体的・対話的で深い学び」に向けた研究授業や互見授業を実施する。提出された研修レポートはPDF化してネットワーク上に公開し、全教員が成果を共有する。</li><li>・学習意欲を喚起させ、学習計画を立てさせるため、年4回の定期考査前に教務通信「Study Navi」を配布し、生徒に活用させる。</li><li>・各学期末に「学習ふりかえり WEEK」を設定し、「学習ふりかえりシート」を用いて学習に対する意識や理解度など、生徒自身が学習活動をふりかえる時間を確保する。また授業評価アンケートを実施し、「わかる授業」への工夫、改善を考える参考とする。</li><li>・研修レポートの内容やふりかえりシートの分析結果の検討を教科や学年で行い、指導法の研究や学習意欲の向上など、学習指導の充実を図る。</li></ul>	
達成度	2. 1回	全体 95.4%(2学期)
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・校内研修の期間として、5月と11月の2回を設定していた。5月は3年間に1度の「学校訪問」に実施を予定していたがコロナウィルス感染症のために臨時休校となり、11月に3日間の授業を対象とした互見授業のみとなった。</li><li>・教務通信「StudyNavi」では、学習意欲の向上を図る目的で、裏面に考査前の学習計画表を載せるなど、その時期や学年に応じた内容になるようにしている。</li><li>・各学期末の「学習ふりかえり WEEK」では、生徒が「学習ふりかえりシート」に自分の学習活動に対する振り返り、授業評価を実施した。また、本年より「学習ふりかえりシート」はタブレットに入力する形とした。</li></ul>	
評 価	A	・教員の校内研修参加回数、生徒の理解度とともに達成目標を上回り、高い数値となった。生徒の理解を深めるための、より良い授業を考える取り組みが成果として表れた。
学校関係 者の意見	授業内容の理解度が全体で目標値を超えている。これは、先生方の創意工夫と熱心な指導の表れであり敬意を表す。学習のふりかえりにタブレットを利用することで集計や分析が自動化され授業の評価や改善が進み、学習意欲の喚起、主体的な学びの態度・姿勢を自ら育むことが期待できる。	
次年度に 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"><li>・今年度のICT機器を活用した授業、AL型授業への取り組みが多く見られたが、教科の特性もあり、導入が進んでいない教科もあった。全ての教科でこれらの取り組みができるよう授業改善に取り組まなければならない。多くの教科で、グループ・ペア学習を取り入れ、生徒が主体的に活動できるよう教科を超え指導技術を共有できるように研修を企画する必要がある。</li><li>・本年より「学習ふりかえりシート」はタブレットに入力する形としたそのことにより回答(入力)・集計作業の時間が大幅に少なくなった。指導者側がこの資料についてどのように有効利用するかを考える必要がある。</li></ul>	

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)

(様式5)

## 8 学校アクションプラン

令和4年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学習活動2 (検定指導)	
重点課題	小学科における重点科目の学習理解度の向上と資格取得	
現 状	商業の各科目に関する専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図ることを指導目標としている。小学科ごとに重点科目を設け、学習理解の到達度を確認するとともに、全国商業高等学校協会主催の資格取得目標を掲げることにより、学習理解到達度の向上や資格取得者数の増加を図っている。	
達成目標	1・2年生は小学科の基礎科目、重点科目の授業内容の理解度 流通ビジネス科：ビジネス基礎・流通経済科：マーケティング 国際ビジネス科：簿記 ・国際経済科：ビジネス経済 会計ビジネス科：簿記 ・会 計 科：財務会計Ⅰ 情報ビジネス科：情報処理 ・情報処理科：ビジネス情報	3年生は3年間を通して全商主催検定1級の3種目以上取得達成者数
	90%以上	80人以上
方 策	・生徒に各学科の教育目標、重点科目、取得資格目標検定について説明を行い、生徒の学習意欲を引き出す指導方法を工夫する。 ・生徒の検定取得に関する実態調査を行い、検定取得実現に向けての具体的方策、改善点について考える。 ・教員が各学科の取得目標とする検定の学習内容の研究を深め、教員間でより効果的な指導方法について意見交換を行う。	
達成度	1年生 94.0% 2年生 90.2%	3年生 73名
具体的な取組状況	・生徒に各学科の学習内容、重点科目、取得資格目標検定、実践的活動について説明するため、各学科において学科集会を毎学期に実施し、学習意欲の高揚と学科における縦の繋がりを図った。また、検定取得に向けたモチベーションの向上と、これまでの学習を深める狙いとして、上級生が下級生に対し、マンツーマンで教え合う授業を実施した。 ・重点期間においては検定取得に向けて、時間割を工夫するとともに朝学習や放課後補習に取り組んだ。 ・全商検定取得に向け自由に利用できる利用できるプリントを各階に置くことで、各自のペースに併せて理解が深まる仕組みを作った。 ・1・2年生は小学科の基礎科目、重点科目の授業内容に関しての理解度調査を実施した。教員は日頃の授業の指導内容を振り返る機会となり、より効果的な指導方法を互いに研究するなど授業改善に努めた。	
評 価	B	1・2年生は多くの生徒が小学科の基礎科目、重点科目の授業内容について理解度は高いが、旧課程の3年生の対応について課題が残った。資格取得に向けて努力を重ねるだけでなく、理解した内容について後輩たちに伝える機会を設けたことにより、プレゼンテーション能力が向上し、進路決定における面接試験でも大いにその力を発揮した。
学校関係者の意見	検定では、思考力、判断力、表現力を問う問題が増えている。各自がその能力を發揮するためには言語活動が正しくできる能力が必要である。読解力など言語活動能力を育成し、思考力、判断力、表現力を高めていただきたい。また、生徒が主体的に取り組むためには、目標の設定、良い習慣の継続と雰囲気作り、指導者の研鑽が大切である。	
次年度に向けての課題	・1・2年生で小学科の基礎科目、重点科目の理解度は概ね目標を達成していた。さらに生徒が主体的に学べるような授業展開を工夫することで、理解不足の生徒には個別指導等による継続的な指導を徹底し、学習意欲を高める必要がある。 ・新学習指導要領の実施に合わせ、新検定が実施されてきている。以前より思考力、判断力を求める問題が多く、社会で求められる能力を指導者も理解を深め、指導力の向上を図る必要がある。思考力や判断力を身につけることができる授業になるよう指導方法や、学校全体としての仕組み作りを工夫しなければならない。	

(評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：達成できなかった)

(様式5)

## 8 学校アクションプラン

令和4年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 3 -	
重点項目	学校生活（生徒指導）
重点課題	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上
現 状	生活環境が多様化している中、あいさつや時間厳守・頭髪や服装等の自律に乏しい生徒が見受けられる。また、通学に自転車を利用している生徒が多く、登下校時に数件の交通事故報告があった。また、スマートフォンの所有率がほぼ100%に近いなか、SNSを通して友人とトラブルになったり、使用時間が長くなったりする生徒が見受けられる。情報モラル教育の工夫が必要である。
達成目標	遅刻が0の日
	年間を通じて120日以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・ビジネスマナー、規範意識等が身についた信頼される生徒の育成を図る。</li><li>・「時を守り、場を浄め、礼を正す」の徹底を行う。</li><li>・遅刻や頭髪再検査を繰り返す生徒を早期に把握し、本人との面接や保護者と連携を図り、生活習慣の改善を促す指導を行う。</li><li>・他者を理解し、仲間を大切に、認めあい、学びあいながら生徒の育成を図る。</li><li>・月例交通安全指導日を中心に積極的な交通安全活動を促す指導を行う。</li></ul>
達成度	遅刻をした日数 【参考：昨年度32日（1/31まで）】 内訳 1年生 … 14 / 193日 2年生 … 11 / 194日 3年生 … 12 / 163日 計37日（1/27現在）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・怠惰による遅刻3回で朝指導を行うことを周知し、遅刻常習の生徒を抑止した。</li><li>・教員と生徒の共通理解を図りながら、頭髪・服装検査を年間6回実施した。</li><li>・自律委員とサイクル安全委員が中心となり、毎月街頭指導（1日・15日）を実施し、交通マナーの遵守を促した。</li><li>・4月に交通安全教室を実施し、自転車の安全利用に関する全校集会を実施した。</li></ul>
評 価	A ・遅刻0の日が、各学年120日以上であった。
学校関係者の意見	挨拶などの礼儀がよく、これは長年の伝統による校風と先生方のご指導の賜物と思う。社会人として時間を守ることは基本であるので、遅刻をこれだけ少なくする取組は素晴らしい。道徳心の育成が大切であり、家庭の協力を得ることも考えていただきたい。価値観や判断基準が多様化しており指導の難しさはあると思うが、高岡商業らしく人づくりを目指す指導をこれからもお願いしたい。
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・特に「時を守る」「礼を正す」の指導を通して、地域や保護者から信頼される高商生の育成を継続していく。一方、本校校則については時代錯誤的との指摘もあり、見直しについて建設的な議論が必要である。</li><li>・頭髪の指導に本人の理解や納得が得られず、改善が見られない生徒が一部いる。本校校則の意義を粘り強く伝えるとともに、保護者の理解・協力を得ながら指導を継続していく必要がある。</li><li>・登下校時の自転車による交通事故が9件発生しており、スピードの出し過ぎによる苦情もあった。自転車の安全利用について継続的な指導を行う。</li></ul>

(評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：達成できなかった)

(様式5)

## 8 学校アクションプラン

令和4年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 4 -		
重点項目	進路支援 (進路指導)	
重点課題	1年次から3年次まで3年間を見通した進路指導計画の立案	
現 状	進路指導部では、進路希望調査や進路ガイダンスの実施、過年度生の資料をまとめた『進路の研究』の作成・配布を行っている。またクラス担任は、新年度スタート時や次年度の科目登録の前に個人面談を実施し、将来の進路について生徒に考える機会を与えている。しかし本校の生徒は自らの進路を意識する時期が遅く、3年生になる直前でようやく真剣に進路選択を始める生徒がたいへん多い。それぞれが一過性のイベントで終わっていること、「進路選択」という全体の流れの中でのそれぞれの位置づけや役割が、生徒にも教員にも明確になっていないことが一因であると考えられる。入学から卒業まで、3年間を視野に入れたバランスのとれた進路指導計画が必要である。	
達成目標	1・2年生 学年・クラスで実施する進路学習の時間	3年生 進路に対する満足度 (就職内定企業・進学予定校)
	各学年 7月3時間以上 3月3時間以上	3年生：95%以上
方 策	・1年生では職業観の育成を目標に、2年生では個々の進路目標の具体化を目標に、7月と3月の特別編成授業の期間を中心に進路学習の時間を計画する。実施の際には、進路指導計画全体における当該行事の位置づけ・その後の見通しが、生徒にも教員にも明確になるように工夫する。また中学校からのキャリアパスポートとの接続を図り高校でのキャリアパスポートとして記録に残していく。 ・3年生は、個々の進路目標の達成が目標となるため、就職者、進学者、それぞれの希望に合ったガイダンス・特別講座等を計画する。今年度は4年制大学進学希望者が多いため、一人でも多くの生徒が希望を叶えられるよう、開催方法を工夫する。就職内定先・進学予定校が決定した時点で、アンケート等により実態把握と意識調査を行う。	
達成度	7月 ・1年生2時間 ・2年生4時間 2-3月・1年生4時間 ・2年生6時間	3年生 進路に対する満足度 就職100% 進学99%
具体的な取組状況	・1年生：社会人講話とキャリアパスポートの説明(7月2時間)を実施。進路ガイダンス(2月2時間3月2時間)を実施予定。2年生：7月に進路ガイダンスと進路研究(各2時間)を実施。2月には3年生と語る会(1時間)、3月に卒業生との進路懇談会(2時間)、進路別ガイダンス(3時間)を実施予定。これ以外にも12月1月に1時間ずつ行った。3年生：進学希望者対象に土曜講座で小論文・面接対策講座(7月～11月・全14回)、就職希望者には就職ガイダンス(7月)、就職試験直前対策の講座(8月)の実施と、応募前の企業見学を3社以上行った。公務員希望者には公務員試験対策講座(4月～10月・全14回)を実施した。	
評 価	A	3年間を視野に入れた進路学習の機会の設定を目指し、1・2年生の進路学習の時間を増設できた。3年生については、土曜講座等を充実させることで様々な希望進路の実現をサポートすることができた。
学校関係者の意見	就職、進学実績は申し分なく生徒の満足度も高く保護者も同様の評価と思われる。若い先生方には、企業を訪問し経営者に会い、現場の空気に触れ企業をよく知ること、先生方の見識や志気の向上、生徒との接し方や指導内容の改善につなげていただきたい。	
次年度に向けての課題	1年生7月の目標を達成することができなかった。特別授業の総時間数が少なく進路学習ばかりに時間を割くことが難しかった。インターンシップ等の行事と絡めたり、通常的时间割内のホームルームを利用したり、実施方法、実施時期の再検討が必要である。また学年からの要望もさらに取り入れながら、実のあるキャリア教育を展開する必要がある。	

(評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成きた C：達成できなかった)

(様式5)

## 8 学校アクションプラン

令和4年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 5 -	
重点項目	特別活動
重点課題	部活動の充実と競技力の向上
現 状	本校では、部活動を人格形成の重要な柱として位置づけ、各部が高い目標に向かって課題を追求しながら自発的な活動を行っている。また、スポーツ庁のガイドラインや県の方針を踏まえた部活動の在り方を検討し、合理的・効率的に工夫した練習を行っている。生徒が主体となって活動することにより、自らが成就感・達成感を味わい、心の成長を感じることができる部活動を目指す。
達成目標	部活動を通して競技力の向上と豊かな心の成長を感じられる生徒の割合 90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・部顧問や部活動指導員及びテクニカルエキスパートによる技術指導・生活指導等を充実させる。</li><li>・トレーニングハウスのトレーニング機器を有効に活用し、基礎体力の向上を図る。</li><li>・スポーツ庁および県の方針に従いながら、県内外の強豪校と練習する機会を積極的に設け、技能の向上を図るとともに意識の高揚に努める。</li><li>・オフシーズンになる冬季を中心に研修や合同練習会を企画する。</li><li>・生徒が目標を持って学校生活に取り組めるよう、生徒会とともに特別活動の充実を図る。</li></ul>
達成度	92.1%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・部活動指導員及び特別活動指導員、テクニカルエキスパートによる技術指導等を行い、各部の活動内容の充実を図った。</li><li>・トレーニングハウスのトレーニング機器を有効に活用し、基礎体力の向上を図った。</li><li>・県内外の強豪校との練習会等により、技術の向上を図るとともに意識の高揚に努めた。</li><li>・新型コロナウイルス感染拡大に伴い合同練習会は、実施せず。</li><li>・生徒が部活動で自己の成長を実感できるように、活動報告を適時に行い、各部活動の活躍を全校で共有した。</li></ul>
評 価	<b>B</b> 部活動を通して、競技力(成績等)や心が成長したと感じている生徒は、「大いにある」が41.4%、「ある程度ある」が50.7%であった。
学校関係者の意見	今年も高商生の活躍に多くの感動と元気をいただいた。コロナ禍のため制限の多い学校生活だったと思われるが、部活動を通して競技力の向上と豊かな心の成長を感じた生徒の割合が目標を上回っている。これは、生徒の意欲的で積極的な取組と先生方の熱意あるご指導の賜物と思う。部活動の中で育まれる人間関係や心身の成長は、貴重なものとなるので、これからも生徒が充実した学校生活を送ることができるよう指導をお願いしたい。
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒が主体の活動を推進し、知・徳・体にわたる「生きる力」を育み、人格の形成を図る。</li><li>・本年度同様、スポーツ庁・文化庁のガイドラインを遵守することを一層徹底する。</li><li>・部活動指導員・特別活動指導員・テクニカルエキスパートやOB等からの協力を得ながら、情報を活用し、充実した部活動になるように工夫をしていく。</li></ul>

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)